

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0170200455), 法人名 (医療法人社団 豊生会), 事業所名 (グループホームすぎの子 1階), 所在地 (札幌市東区東苗穂3条1丁目13番29号), 自己評価作成日 (平成30年3月1日), 評価結果市町村受理日 (平成30年6月18日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ダイバーショナルセラピーの考えを取り入れ事業所理念である「ゆっくり、一緒に、楽しく、豊かに」を実践。ケア記録ではその方の思いをくみ取る記録を行い、日々の活動や行事、ケア計画に反映し実践しております。また、法人各事業所とも連携体制があり、医療はもちろんのこと、リハビリ、栄養、口腔ケアなどの専門職との連携を行い、最期までその人らしく、楽しみがあり穏かで安心して過ごせるように日々関わらせて頂いております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0170200455-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号), 訪問調査日 (平成30年3月22日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1) ホームの環境 ; 閑静な住宅街にあって、交通・商店等も至便、また関連医療・介護機関も近く連携も至便。地下を含む4階建てのホームは介護機能性も高く、居心地良い環境にある。
2) 職員の介護態度や姿勢 ; 職員は専門性の向上に努め、明るく・優しく真摯な態度で介護に努めている。
3) 家族等の満足度 ; 家族アンケートや職員のアウトカムによる結果は満足度の高さを示している。家族訪問時の応答や日常生活状況の説明などに満足意を表している。
4) 運営推進会議開催状況 ; 家族、地域関係者、地域包括支援機関等が参加の下に、運営状況の資料を開示して、定例に開催して意見要望等を運営に生かしている。
5) 地域との連携関係 ; 地域関係者の協力を得て防災・諸行事等を共に楽しむ機会を設けて事業の理解を進めている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and user satisfaction.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム内に掲げ、朝の申し送り時に職員間で唱和し、職員全員で理念の共有を図り、ケアの実践に心掛けている。	事業所理念は利用者本位に立つ「ゆっくり、一緒に、楽しく、豊かに」を、職員は常に念頭に置いて共有し、その成果を実践で示すよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日頃から散歩時に挨拶をしたり、近所の商店に買い物に行ったりと交流を図っている。	2000年創設のホームは、地域と共にあることに努めてきた。近隣には利用者の楽しめる集いの場や機会があるなど、散歩の際も近隣との挨拶を交わしたおつきあいがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所外の掲示板に入居者がアクティビティとして作ったり書いた貼り絵や習字などの作品を展示し、認知症であっても特性を生かすことで素晴らしい作品が出来る事を地域住民に紹介している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や町内会長、地域包括センター職員、管理者、職員などが参加して入居者の状況(看取りも含め)、防災計画などの意見交換や報告を行いサービスの向上に役立てている。	会議は家族・地域関係者を含み、運営資料等を開示報告して、関係者の意見要望を運営に生かしてきた。また同系列の医療・介護機関との連携や地域防災の組織的協力を得る役割を会議を通して行ってきた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は管理者連絡会議に参加している他、市から発信されている研修会に参加したり疑問や相談はいつでも市に問い合わせをしている。	定例報告はもとより、管理者連絡会議等での行政指針等あるいは研修の機会として相互の連携を図っている。また利用者の支援に必要な所管との連携も図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内外の勉強会に参加したり、事業所内の勉強会で取り上げ、拘束についての知識を深めて実行している。	指定基準に示す拘束を具体的事例で理解する法人内研修や職場内研修での実践的な学習に努めて、利用者支援の質的向上に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の勉強会に参加したり、事業所内の勉強会で取り上げ、虐待についての知識を深めて防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会などで、管理者や職員は知識や必要性を学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者がご家族に直接口頭や文章で十分理解・納得出来るまで説明を行い、同意の元、契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各フロアにはご家族用の意見箱を設置している。日頃から来訪時に口頭での意見や要望などを聴くように心掛けている。カンファレンスでその旨検討し、プランや事業所の質の向上に努めている。	運営に関しては家族訪問時の日常生活の丁寧な報告に努め、また定例の「すぎの子だより」での写真入り行事等の連絡、運営推進会議の家族参加等で意見・要望を運営に生かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行っているカンファレンスや勉強会、人事考課などで職員の意見や要望を聞いている。又、職員の中から業務改善委員を選抜し、職員意見をもとに業務の改善にも取り組んでいる。	定例的な職場会議で業務上の知識・技術・経験に基づく意見を聴取するとともに、人事考課に伴う業務目的やねらいとその効果を協議して、管理組織上の指導や待遇に生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れて、半年毎に考課を実施している。各職員がそれぞれ目標を立てて、向上心を持って働ける環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1回、勉強委員主催の毎回異なる議題の勉強会を開催している。研修案内は随時スタッフに告知し参加を促し、研修後は研修発表という形で職員間で知識の共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会やフォーラムなどで他事業所との交流を図り、サービス向上の取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人と面談を行い聞き取りを行っている。又、現在利用しているサービス機関があれば、情報協力も得ながら本人に寄り添ったプラン作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の段階で本人、ご家族と面談し、アセスメントを取っている。今後も家族の協力は不可欠である事を伝え関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約の段階で本人、ご家族と面談し、アセスメントを取っている。必要に応じて医療機関などのサービス含めた支援内容を検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、分かる事は自分で行って頂き、1人では出来ない事は一緒に行ったり、必要に応じて援助する、という事を心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年間の行事や運営推進会議、外出行事などの参加を促し、情報を共有しながら共に本人を支えていけるよう関係性を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族来訪時には居室でゆっくりと一緒の時間を過ごして頂くように心掛けている。	家族の来訪時の「ゆっくり、一緒に」交わりの機会を支援できるよう努めている。ホーム内での馴染みのイベントや行事を多く、時に家族を含め楽しみ多いものとする支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	どうしても孤立してしまう事が多く、入居者同士では関係性を築くのは困難な為、職員が間に入り、関係性を取り持つように心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	積極的にこちらからは特に行なってはいませんが、必要であればその都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から直接聞き取りが困難な際にはご家族からの意向や本人の昔の様子や言動などから検討しプランに反映出来るよう心掛けている。	常に、利用者の言葉や態度に添い、職員は利用者のアセスメントによる特性を共有するよう努めて、日々の生活への思いや望みに沿うべく支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前利用していた施設やサービス機関やご家族からの情報や聞き取りを行ったり、普段、本人の様子や会話の中から昔の様子などを情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子は個人記録に記載しており、特変事項があればその旨、職員間で共有出来るように申し送りをしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回モニタリングを行い、プランの見直しを行っている。毎日の本人の様子やご家族の意見などもプランに反映するよう心掛け、必要であれば医療機関等にも協力・連携して作成している。	月例のモニタリング会議での対処すべき課題を明確にして、職員は共有に努め、介護計画策定に当たっては役割担当者と共に作成に当たり、家族の了解を得ている。必要に応じて医療等専門機関の協力を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の関わりや様子は介護記録に記載し、定期的に職員間でカンファレンスを行い、ケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	すぎの子だけでなく法人内の施設を有効活用しサービスの多機能化に対応するよう取り組んでいる。ショートステイも受け入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公園や近くの大型ショッピングモールなど活用したり、外食や法人の夏祭りに参加などして地域資源を活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は法人内の往診医療機関と提携している方が多いが希望があれば情報提供書など作成し情報を共有しご家族の協力も得ながら対応している。	基本的には利用者のかかりつけ医で対応する。了解を得て、法人内協力医療機関等の往診等を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師はいないが、定期的な訪問看護時にはその都度状況を報告し、対応している。特変時には電話連絡したり、他階の訪問時に指示を仰ぎ、対応する事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には書式や口頭で情報の共有を行っている。入院時にも状態を確認したり特変時には連絡を取りあい連携、関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時にはご家族には看取りについての説明も行い、その都度話し合いの場を設けて情報の共有・連携をとっている。地域には運営推進会議の中でも説明、周知している。	重度化・終末期の対応については入居時に家族・協力医療機関等との連携を図って対応すると合意を得ており、実例に応じてその都度、家族等と協議して対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会やマニュアル作成は行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回の近隣住民を交えての避難訓練を実施している。運営推進会議で町内会に避難経路の説明や非常時の協力は得られている。	運営推進会議等を通じて、防災対応と地域関係組織との協力関係の合意に努めている。年2回の想定訓練の内1回は、地域関係者と共に訓練を行っている。	近年の想定外の災害の実情から、従来に増して、地域防災の共有について、官公署と共に地域関係者との連携を強化されるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴時には特に配慮しカーテンで仕切ったり、職員間の声掛けも個人が特定できない様にインシヤルで伝えたり、記録物などは厳重に保管している。	職員は利用者の日常生活での個別性を損なうことない配慮のもとに、介護対応の一言ごとに留意した支援に努めている。また記録とその保管管理にも合意して留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉や表情、仕草など様子観察しながらその方の思いに対応できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に本人の希望に沿うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で更衣できない方にも、更衣時に本人に服を選んで頂いたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼりたたみや野菜の皮を剥いたり、盛り付けや食器拭きなど一緒に行っている。	食事を楽しむひと時とするため、個々の嗜好の確認や季節・行事・外食などの変化に応じた食事の機会対応に努めている。また個々の心身の状況に応じた片付けなどを共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の好みや身体状況に応じて食事をお粥やキザミ、ペースト、トロミなど形態や形状を変えてスムーズに摂取出来るよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯を使用している方は回収して洗浄液に漬け保管、自力では不十分な方には必要に応じて援助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意や便意の無い方にはその方の排泄時間の記録を参考にして定期的な声掛けや誘導を行い、トイレ内で排泄出来るよう心掛けている。	利用者個々の排泄の自立的支援を基本に、個々の食生活や心身の状況や排泄パターン等を職員が共有に努め、トイレ排泄への支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すために毎朝牛乳を飲んだり、体操やアクティビティで身体を動かしたり、トイレ時には腹部マッサージを行ったりしている。必要に応じて下剤や座薬も併用して対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意向に沿った対応に努め、週2回の入浴間隔を基本にしている。	入浴は9～17時までの間に、個々の心身の状況や意向に沿いながら、週2回の入浴を楽しめるよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に就寝時間は決めておらず、その人の状態や生活習慣に合わせて日中臥床時間を設けたり、入床介助を行っている。室温や照明の明るさなどにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示や薬表を参考にして薬に対する理解を周知・徹底している。必要であれば医療機関と連携して対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的な家事のお手伝いから他フロアへの配達、畑の水やりなどを行ったり、毎日体操やアクティビティなども実施、気分転換に散歩や外出も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近くの公園まで散歩をしたり、玄関先で外気浴を行う事もある。又ご家族の協力も得て、皆で車で外食や外出、また個別の外出も定期的に企画して行っている。	地域の活動と共に、東苗穂地域にある法人関連事業の豊生会祭りや日常での近隣の公園散歩、家族の協力などによる外食会等を定期的に企画して閉塞感の無い生活支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族や職員と共に自分のお金で買い物に出かける機会も設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話や手紙を訴える方はいないが、希望があれば対応し、ご家族などから電話や手紙などがあればおつなぎしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温や湿度などエアコンや加湿器などで調整している。季節や行事に関係する飾り物やポスターなどで季節感を提示している。	居間空間は南面に半円形の開かれたガラス窓が開放感を与え、温・湿度や採光の管理の下に、居間空間を包んで居室や介護機能設備が効率的で至便な配置がされている。また季節に応じた飾り物などを配置して、居心地感などを満たす工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを3つに分け、状況に応じて席を移動したり、フロアにソファを別に設けたりと、個別の時間を過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には今まで使用してきた馴染みの家具などを持ち込んで使用している。入居後も本人の状態や状況に応じて家具の配置や入れ替えも常時行っている。	居室は個々の家庭での思い出多い飾り物やなじみの家具調度などを配置して、家族と共に居心地良い環境づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに表札を掲げたり、居室の照明の紐を長くしたりして自分で点けたり消したりできる様に工夫をしている。		